



リニア時代に向けた新施設の整備に関する 「基本的考え方」(案) 概要版

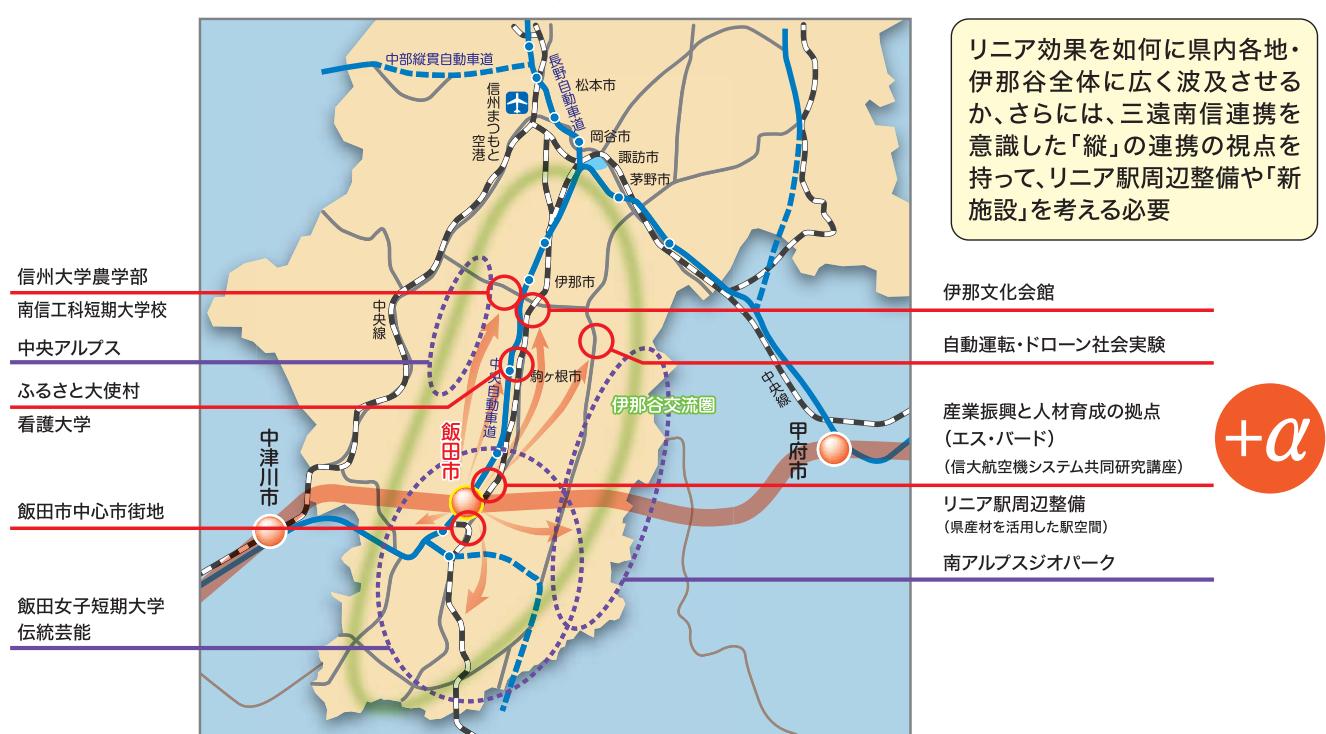
南信州広域連合

●取り巻く環境

- リニア時代における伊那谷・南信州は、「スーパー・メガリージョン」「ナレッジ・リンク」の中で日本全体さらには世界に対して存在価値を発揮できるか、という視点が不可欠
- リニア沿線各都市との連携と差別化を考え「長野県らしい、伊那谷らしい」アプローチが必要



●伊那谷・南信州における連携



①施設を考える上でのポイント

南信州地域を取り巻く状況と問題意識

地域課題(人口減少、少子高齢化、若者の流出)

リニア開通による立地ポテンシャル
(3大都市圏からの時間距離等)の活用

「スーパー・メガリージョン」
「ナレッジ・リンク」の中での存在価値を発揮

- ◎「暮らしの質」を高めることが若者の回帰、移住・定住の促進につながる
- ◎当地域を訪れる必然性を創る(価値を発信・創造する)ことが肝要

施設整備のビジョン

ここで暮らすことを自慢したくなる「誇りや自信を創造する」施設

国内外から人が訪れたくなる「価値を発信・創造する」施設



コスト意識は極めて重要
民間事業者の参画を積極的に追求した施設

●「つくる目線」ではなく、「つかう目線」で考える ●民間の知恵と活力を積極的に借りる

使い方、コンテンツ

①スポーツ文化の醸成

- ◎「観る」機会に加え、青少年がプロスポーツに触れ、触発される場を創る
- ◎市町村の枠にとらわれないクラブチームの結成、活動拠点
- ◎パラスポーツ(障がい者スポーツ)の国内拠点
- ◎シニアスポーツの拠点となり、健康長寿の延伸に寄与



②伝統文化の発信、芸術文化・娯楽の享受

- ◎地域内外の人々が伝統芸能・民俗芸能を鑑賞、学べる
- ◎本物の芸術や娯楽に接する機会



③「小さな世界都市」を目指して

- ◎「公民館活動」のフィールド・スタディの拠点
- ◎立地を生かした企業研修の国内外有数の拠点
- ◎環境問題に関する団体等が集う拠点、ESDやSDG'sの拠点
- ◎国際的に通用する若者を育てる拠点

ESD 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育
SDG's 2015年に国連で採択された持続可能な開発のための国際目標



②コンセプト

- ◎スポーツや芸術文化を「学ぶ」環境を充実させることで、住民(特に若い世代)の誇りや自信を創造する
- ◎この地域の伝統芸能や文化活動など「学ぶ」に値する価値を国内外に発信する
- ◎公民館活動に代表される「学びの土壤」をベースとした交流と体験を通じた能動的な「学び」により、新たな価値を創造する
- ◎「一か所完結型」でなく、圏域内外の施設と連携して一体としてビジョンを実現(=ベースキャンプ)

「学びの県づくり」の拠点となるような

信州「学びのベースキャンプ」(仮称)

ベースキャンプとして圏域内外の施設と連携して一体としてビジョンを実現する施設

③具体的イメージ

アリーナ機能を中心とした複合施設

アリーナ:周囲を観客席で囲まれた多目的利用可能な平らな床面

次のようなコンテンツを担うことを見込める

- ◎子供・青少年がプロスポーツに触れ、各種スポーツを本格的に学べるような市町村・校区を越えたクラブチームの拠点となる
- ◎リニアの利便性を活かして首都圏からプロの指導者が訪れ、ワールドクラスを目指せる環境を整備
- ◎パラスポーツ（障がい者スポーツ）、シニアスポーツの一大拠点となる
- ◎時には、大規模なスポーツ大会やイベント・コンサート、コンベンションを開催
- ◎獅子舞や地歌舞伎、人形浄瑠璃、無形文化財の民俗芸能（祭り・踊り）などを国内外に発信



新施設整備に向けて今後検討を要する論点

- 施設の建設・運営の方式（公設民営、民設民営ほか）
- 座席数をはじめとする施設規模
- 利用形態（興業主体か住民利用主体など）
- 立地条件（面積、アクセス、法的条件）の整理と候補地の絞り込み
- 概算事業費、財源
- 開設時期（目標）

南信州広域連合

飯田市追手町2丁目678番地 TEL.0265-53-7100 FAX.0265-53-7155 mail:kouiki@minami.nagano.jp